

理工系分野のジェンダーギャップ解消事業【京丹後市】

個別事業費	593 千円
交付金額	296 千円

地域の実情と課題

少子高齢化が深刻化する中、高等教育機関のない本市は、高校卒業後、ほとんどが市外に転出し、大学等を卒業後も戻ってくる若者は非常に少ない現状がある。一方、本市の主力産業である古く栄えた丹後ちりめんの織物産業に端を発した製造業は、現在では設計等PC上での作業も多く、エンジニアの求人が多い中、人手不足も深刻である。

事業の特徴

女子の割合の低い理工系分野なかでもIT分野で活躍できるきっかけをつくるために、女子中高生向けのプログラミング講座を開催。加えて、広く市民の理解を得るために、講座の前に講演会を開催した。進路選択に潜むジェンダーバイアスを市民、とくに保護者世代や教職員である大人たちに知ってもらうことで、女性の将来の進路選択や就職の選択の幅を広げ、家族として後押しできる環境を整えるもの。

事業の効果

講演会とプログラミング講座の参加者にアンケートで意識変化を調査したところ、講演会参加者の約90%、プログラミング講座参加者の全員(100%)が満足しており、理工系、IT分野の可能性や進路選択について考えが広がり、中高生本人が自身の進路について、考え直したり、自由な将来を検討するきっかけとなっている。

目的・目標

将来的に、理工系分野の技術を身につけた女性が、この地域で活躍できる職場環境を整えることで、女性の雇用機会を増やし、Uターンを期待する。その前段階として、進路選択におけるジェンダーギャップを解消し、女子に敬遠されがちな理工系分野の進路選択の幅を広げて、職業に対する選択の自由度も高めていきたい。

連携団体

- ・市内中学校および高等学校
- ・京丹後市PTA
- ・京丹後市青年会議所
- ・京丹後市女性連絡協議会
- ・丹後機械工業組合
- ・京丹後市地域雇用促進協議会
- ・京丹後市商工会

今後の課題

理工系分野にジェンダーギャップがあるという認識や社会課題意識が低いため、まずは本事業の意味付けを理解してもらうための啓発が必要だと感じた。本事業で行った日本におけるジェンダーギャップの問題提起を今後も講演などを通して、広く、児童生徒に知らせることで、性別に関係なく自由な進路選択をしていいということ、成人の理解も深めて、家庭での進路に関するアンコンシャス・バイアスをなくして、可能性を広げる進路選択の支援をしてもらうことを目指す。

事業の概要

理工系分野のジェンダーギャップ解消のため、広く市民への啓発活動と女子中高生のためのプログラミング講座を開催する。とりわけ丹後地域の主力産業である製造業におけるエンジニアや働く場所を選ばないITエンジニアは、本市での就労で男女の賃金格差を縮小させる鍵になると考える。

1. 進路選択におけるジェンダーギャップを解消するための講演会

理工系分野への進学や就労においての女子比率の低さを知ってもらい、進路や職業選択においても性別による無意識の役割分担(アンコンシャス・バイアス)が働いていることを踏まえ、進路選択のジェンダーギャップを解消し、女子への進路選択の可能性を広げてもらい、将来の就労の機会や安定した賃金の獲得を目指してもらう。

〈実施日〉7月6日(木)19:00～20:30

〈会 場〉アグリセンター大宮

〈参加人数〉64人

2. 女子中高生向けWebサイト制作プログラミング講座

現代の中高生がスマホやタブレットでほぼ毎日触れている身近な情報源であるWebサイトをもとに、オンライン上でコーディングワークショップを行い、実際にオリジナルのWebサイトを制作することでITの楽しさやキャリアに触れてもらう。直接、オンラインで指導するのは1日。講座開催日の1週間前に事前課題を行い、当日を迎える。講座終了後、約2週間は、今回の課題や進路相談等、同講座の経験者や理工系進路を選択した先輩にチャットで相談することができる。

〈実施日〉8月25日(金)10:00～16:00

〈会 場〉京丹後市役所会議室

〈参加人数〉6人